

(電子メール施行)

農技 第 1155 号

平成26年6月18日

各関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察技術情報 第1号を発表しました。

一部の地域で、補植用取置苗等に葉いもちの発生が確認されています。水田内の取置苗は早急に処分し、本田での発生状況を観察するようご指導願います。

平成26年度 病害虫発生予察技術情報 第1号

いもち病（葉いもち）の防除対策について

- 1 対象作物 イネ
- 2 病害虫名 葉いもち（補植用取置苗）
- 3 発生地域 一部の地域
- 4 発生程度（時期） 多い（早い）
- 5 発生状況について

- (1) 県下の一部地域で、補植用取置苗に葉いもちの発生が確認されている。
- (2) 発生ほ場で病斑が認められた場合、気温、天候によって、葉いもちの多発生につながる恐れがある。
- (3) BLASTAM（葉いもち発生予察システム）による感染好適条件が、6月5日～7日に但馬、丹波、西播磨、北播磨、淡路地域で出現している。

※ 兵庫県立農林水産技術総合センターホームページ上で BLASTAM によるいもち病の感染好適日の情報を提供
(<http://hyogo-nourinsuisangoc.jp/chuo/bojo/blastam2014.htm>)



写真 1 取置苗のイネに急性型病斑

写真2 取置苗のイネに褐点型病斑

※急性型病斑：孢子形成が多く、急速に蔓延する状態 褐点型病斑：イネ組織の抵抗により褐変したもの
「褐点型病斑」「急性型病斑」は病徴が異なる。特に褐点型病は見逃しやすいのでよくほ場観察すること。

6 発生予想について

イネいもち病の感染好適条件は気温 25℃前後、湿潤条件 10 時間以上であり、低温・日照不足に遭遇するとイネのいもち病に対する抵抗力が低下することから、取置苗に発病が認められたほ場では、6 月下旬以降に、葉いもちの多発が懸念される。

また、向こう 1 か月予報によると、梅雨入りはやや早かったが、6 月下旬の気温は平年並または低く、7 月は平年並と予想されている。降水量は平年並または多く、日照時間も平年並または少ないと予想されていることから、今後も感染しやすい気象条件が続くと予想される。

については、BLASTAM（葉いもち発生予察システム）の情報を確認するとともに、ほ場での観察を徹底すること。

7 防除対策について

- (1) 取置苗は、葉いもちの伝染源となるので発病の有無を確認の上、早急に本田から引上げ土中に埋没する等、適切に処分すること。
- (2) ほ場での葉いもちの発生を継続的に観察する。特に補植用取置苗に葉いもちが確認されたほ場および箱施用薬剤を使用していないほ場では、本田内に葉いもちが発病していないかよく観察する。
- (3) 本田で急性型病斑が多数認められた場合は、箱施用剤を施用したほ場でも直ちに防除を実施する。その場合治療効果の高い薬剤（フェリムゾン・フサライド剤：商品名 ブラシンフロアブル、同粉剤 DL 等）で防除する。
- (4) 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システム等を参考に選定し、農薬使用基準を遵守すること。

兵庫農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222
